

抑うつ - 記憶研究における概念駆動型潜在記憶テストとしての 意味定義課題の作成について

Development of Semantic Definition Task as a Conceptually Driven Test: For Research on Implicit Memory in Depression

田上 恭子*

Kyoko TAGAMI*

要 旨

これまで抑うつにおける潜在記憶研究では、概念駆動型潜在記憶テストを用いた場合にはネガティブ・バイアスが生じる可能性が示唆されているものの、課題によってバイアスが生じるかどうかは異なっており、結果は一貫していない。本研究は、抑うつにおける潜在記憶の気分一致バイアス研究において用いるための概念駆動型潜在記憶テストとして、意味定義課題を作成することを目的とした。特性語の意味定義の作成を行った後、大学生を対象に、未学習状態で意味定義を呈示し特性語の産出を求め、また特性語の望ましさにについて9段階で評定させた。各意味定義からの平均産出率と各特性語の望ましきの平均評定値が算出され、概念駆動型潜在記憶テストとして用いる場合の留意点及び今後の検討課題について論じられた。

キーワード：潜在記憶、特性語、概念駆動型テスト

1. 問題と目的

(1) 抑うつにおける記憶の気分一致効果

うつ病や抑うつ状態にある時には、自分自身、将来、世界をネガティブに認知するといわれており^{1,2)}、抑うつにおける認知の特徴について、これまで臨床心理学や認知心理学、社会心理学において、広く研究されてきた。特に1970年代より盛んになってきた感情と認知との相互作用に対する認知心理学的アプローチから、気分一致した感情価を持つ情報の認知が促進されるという気分一致効果 (mood congruent effects)³⁾が見出され、この現象は抑うつの持続において重要な役割を持つことが指摘されている^{4,7)}。

気分一致効果研究においては、ポジティブ-ネガティブ、快-不快といった刺激の感情価が重要な要因であり、記憶研究に関していえば、単語の記憶や、物語などの文章記憶、対人記憶、自伝的記憶などさまざまな記憶課題において、ポジティブ-ネガティブ気分や快-不快気分、抑うつ

-非抑うつ状態でどういった感情価を持つ刺激の記憶・想起が促進されるかが検討される。その中で、抑うつにおける記憶の気分一致効果研究からは、一般的に抑うつ者においてはネガティブな感情価を持つ刺激の記憶が促進される、すなわち抑うつ者はネガティブな記憶バイアスを示す傾向があることが、ほぼ一貫して示されてきている⁸⁻¹¹⁾。ただし、これらの研究の多くでは、記憶測度として学習時のエピソードを意識的に想起することが求められる顕在記憶テストが用いられている。これに対して、テスト時に必ずしも先行学習のエピソードの意識的想起を必要としない記憶を潜在記憶と呼ぶが、抑うつにおける潜在記憶研究は顕在記憶に比べると数少なく、結果も一貫していない。日常記憶において顕在記憶が用いられているのはほんの一部に過ぎず、潜在記憶が日常の活動の重要な決定要素であることの指摘もなされているが^{6,7,12)}、このことから、抑うつにおける潜在記憶に関するメカニズムを明らかにすることは重要な課題であると考えられる。

* 弘前大学教育学部学校教育講座 (教育心理学分野)

Department of School Education (Educational Psychology), Faculty of Education, Hirosaki University

(2) 潜在記憶について

記憶の顕在記憶と潜在記憶との区分については、1980年代の記憶研究において多くの研究者たちの関心を集めたトピックである¹³⁾。特に、再生や再認といった顕在記憶テストにおいてはパフォーマンスに低下がみられるのに対し、単語完成課題や知覚同定課題などで測定される潜在記憶においてパフォーマンスの低下はみられないといった、たとえば健忘症患者に特徴的であるような、分離(dissociation)の現象が目撃され、非常に数多くの研究がなされており、またそのメカニズムを説明する幾つかの理論も提唱されている¹³⁻¹⁶⁾。

潜在記憶においては、多くの場合、プライミング課題が測度とされる¹³⁾。代表的な課題としては、単語フラグメント完成課題(word-fragment completion task)が挙げられる。この課題は藤田^{13),17)}によって以下のように説明されている。たとえば“□た□もい”のような単語のフラグメントを手がかりとして元の単語“かたおもい”を報告させると、一度学習された単語は未学習の単語に比べて完成率が高くなる。この現象がプライミング効果と呼ばれるものである。この課題を施行する際には、学習語で報告するようには求めず、“最初に心に浮かんだ単語を報告するように”と教示を与えるが、すなわち、学習語の意識的想起を求めなくてもプライミング効果が認められるのであり、このことから、課題遂行には学習エピソードの意識的想起を求める必要がなく、しかしそれでも過去の経験(学習)の影響が完成率に反映することから、潜在記憶が測定されたとみなすのである^{13),17)}。この他にも、語幹完成課題、知覚同定課題、連想課題、語彙決定課題、一般知識課題、カテゴリ要素産出課題など、さまざまな潜在記憶課題が用いられている¹⁸⁻²⁰⁾。

これらの記憶テストに関しては、課題によって要求される処理過程が異なることが論じられている。藤田¹³⁾によれば、たとえば単語フラグメント完成課題で必要となる刺激の物理的・形態的特徴についての処理を行うのはデータ駆動型(data-driven)、一方概念的・精緻的処理をするのは概念駆動型(conceptually driven)というように、処理タイプは分類される。これまで潜在記憶課題の多くはデータ駆動型処理を反映するものであると考えられてきていたが、潜在記憶課題＝データ駆動型課題とはいえないことが指摘されているとい

う¹³⁾。あらゆる記憶課題の遂行においては、両方のタイプの処理が含まれており、その課題遂行においてどちらのタイプの処理が相対的に重要かに基づいて分類が行われ、その課題の遂行のためにデータ駆動型処理を要求する割合の高い課題がデータ駆動型処理課題、概念駆動型処理を要求する割合の高い課題が概念駆動型処理課題と、それぞれ概念的に定義されている¹³⁻¹⁴⁾。

(3) 抑うつにおける潜在記憶研究

初期の抑うつにおける潜在記憶研究では、抑うつに気分一致効果はみられないという知見が多く出された²¹⁻²²⁾。しかし一連の抑うつにおける初期の潜在記憶研究に対して、気分一致効果が示されなかったのは、単語完成や知覚同定といったデータ駆動型の潜在記憶テストを用いたためであるという問題点が指摘され²³⁾、自由連想やカテゴリ連想というような概念駆動型の潜在記憶テストでは気分一致効果が認められるだろう可能性が示唆された。

その後この指摘を受けて、概念駆動型テストを用いた抑うつにおける潜在記憶研究が行われてきているものの^{7),12),24-25)}、概念駆動型潜在記憶テストを用いた研究でも、課題によって気分一致バイアスが認められるものもあれば認められないものもあり、結果は一貫していない。たとえばWatkins 他¹²⁾の研究では、2種のデータ駆動型テスト(語幹完成課題、単語同定課題)と2種の概念駆動型テスト(自由連想課題、単語検索課題)の4つの記憶テスト課題を実施し、抑うつにおける気分一致効果を検討しているが、気分一致効果が認められたのは、概念駆動型テストの中の単語検索課題においてのみであり、意味的・概念的処理が求められる記憶テストでは気分一致効果が認められるという仮説は検証されなかった。彼らはこの結果について、自由連想と単語検索課題では、後者の方がより概念的処理を必要とする可能性があることを述べているが、このことから、概念駆動型処理テスト課題について、より一層刺激やテスト方法を細かく検討していく必要性が感じられる。

(4) 本研究の目的

潜在記憶のテスト課題については、わが国ではたとえば単語フラグメント完成課題¹⁷⁾、類似語

産出テスト²⁶⁾などが作成されている。また概念駆動型潜在記憶テストを用いた抑うつにおける記憶バイアスについての研究ではカテゴリー課題²⁴⁾及び連想課題²⁵⁾が用いられているが、この2つは刺激や課題の検討が厳密であるとはいえないと考えられる。そこで本研究では、Watkins 他¹²⁾の指摘を踏まえ、抑うつにおける潜在記憶の気分一致効果研究において用いるための概念駆動型潜在記憶テストとして、意味定義を与えターゲットを検索するという意味定義課題の作成を目的とする。なお潜在記憶研究において、未学習状態での意味定義からの産出率があまりに高すぎても、低すぎても、プライミング効果は検討できないと考えられるため、未学習状態においてどの程度の産出率であるのかを調査する。

また、気分一致研究では刺激の感情価が重要な要因となり、また刺激の符号化に際しては自己関連的な深い精緻的な処理が求められる^{6),11-12)}。したがって、記憶材料としては性格特性語を用いることとし、さらに感情価についての検討が必要であると考えられることから、性格特性語の望ましき評定についても併せて調査する。

2. 方法

(1) 調査対象

大学生34名を対象に調査を行った。

(2) 材料

特性語については、青木²⁷⁾の性格表現用語の中から選択し、意味定義については筆者自身が作成した。以下の手順で材料の選定を行った。

第一段階として、性格表現用語の455語から、まず動詞、副詞、2文節以上の語（たとえば「気苦労の多い」）、カタカナ表記の計227語を除いた。特性語をターゲットとした場合に、意味定義の呈示から動詞・副詞・2文節以上の語は産出されにくいと考えられたこと、カタカナ表記の語については意味定義が和訳的な類義語となりやすく、産出率が過剰に高くなりやすいと考えられたためである。次に、残った形容詞・形容動詞228語について、辞書²⁸⁾をもとに意味定義の作成を行った。なおこのとき、形容動詞については名詞として意味定義を作成した（たとえば「円満な」は「円満」の辞書の意味から定義を作成）。

第二段階として、作成した意味定義について検討を行った。はじめに、辞書の意味が単語そのものと重複する部分が多いもの（たとえば「無責任」の意味として「責任のないこと」）、辞書の意味が類義語の提示が中心であるもの（たとえば「用心深い」の意味として「注意深い。慎重である」）の42語を削除した。次に、類語辞典²⁹⁾を用いて類義語の検討を行い、類似している特性語や意味について、定義の表現の修正を行った。

第三段階として、本研究では望ましい特性語と望ましくない特性語の選定を目的としているため、青木の研究²⁷⁾において9件法で行われた学生評定中央値の4.5以上5.5以下の31語を削除した。

第四段階として、残った155語について、特性語間、意味定義間、特性語 - 意味定義間を照らし合わせ、さらに吟味を行った。意味定義の中に特性語の多くが含まれるものを削除し、他の特性語及び意味定義の中に重複がないもの80語を確定項目とした。重複がみられた項目については、青木の研究²⁷⁾の使用頻度と学生評定中央値を参考にし、頻度が高いもの、中央値が中央から外れているものを優先して26語を選択した。最後に、全体的に学生評定中央値²⁷⁾に基づいてみると、中央値より低い評定値の語（望ましい語）が44語、中央値より高い評定値の語（望ましくない語）が62語と、後者が多く残ったことから、学生評定中央値の455語全体の中央値が5.7であったことを考慮し、さらに5.5以上6.0未満の8語を削除した。

以上の手続きから、望ましい特性語44語、望ましくない特性語54語の計98語とその意味定義98語を選定・作成した。

(3) 質問紙構成

2つの課題から構成された。1つ目の課題は単語検索課題であり、作成した意味定義を提示し、定義から思い浮かぶ特性語を産出させた。制限時間は設けなかった。なお教示は「下に、単語の意味が書かれています。これらはすべて性格を表現することばの意味です。これらから思い浮かぶ単語を1語ずつ、右欄□にご記入ください。なお、思い浮かばない場合は空欄で結構です」というものであった。項目数は49であった。2つ目の課題は特性語の社会的望ましき評定であった。49の特性語について、社会的にどの程度望ましいか9件法で評定させた。教示は青木の研究²⁷⁾になら

い、次の通りとした。「(1) から (49) までひとつひとつのコトバによって表現されるひとが、あなたにとってどの程度好ましいかを評価して下さい。たとえば、あなたがほかの誰かに対して‘人なつっこい’というコトバを使う場合、やや好ましいというニュアンスをもって使っているのなら、下の9段階の答えのうち、あてはまる4の番号を○で囲んで下さい。なお、9段階の好ましさを程度を表現するのに便宜的に‘まったく’とか‘かなり’といったコトバを使いましたが、1から9迄は同じ程度で変化しているものと考えて下さい」。

各課題のリスト構成については、まず特性語の望ましさを別にそれぞれリストを二分した。すなわち、望ましい特性語（以下ポジ語とする）44語を各22語のリストAとリストBに二分し、望ましくない特性語（以下ネガ語とする）54語を各27語のリスト（ア）とリスト（イ）に二分した。次に、リストA+リスト（ア）、リストB+リスト（イ）というように、ポジ語リストとネガ語リストを組合せたそれぞれ49項目から成るリストを作成し、一方のリストの意味定義を課題1に、もう一方のリストを課題2に配置した。このようなリストの組合せ及び課題への配置の組合せにより、4種類の質問紙を作成した。

(4) 手続き

調査対象者には4種類の質問紙のいずれか1つが割り当てられ、個別に配布・回収した。配布する際には、必ず課題1、課題2の順で取り組んでもらうよう伝えた。

3. 結果と考察

(1) 特性語の望ましき評価値について

提示した特性語の望ましき評価の平均値を算出し、表1に示した。青木の研究²⁷⁾と比較してみると評価値の著しく高い語、低い語についてそれほど違いはみられなかったが、青木の研究で評価値4.0前後のどちらかといえば望ましい特性語の中で、やや望ましくない方に偏るといった違いがみられるものがあった（「淡々」「潔べき」「あけっぴろげ」）。全般的にみれば、大きな違いはないと考えられ、性格特性語の望ましきについては時代によってそれほど大きくは変化しないこと

がうかがわれる。

(2) 産出率について

意味定義から産出された特性語のうち、予め意図していた特性語で回答しているものを正答とみなし、産出率を求めた。意味定義、元の特性語、本研究における産出率を表2に示した。表2をみると、産出率にかなり幅があることが分かる。また、3分の1以上で産出率0となった。

まず産出率0のものが多かったことに関しては、意味定義が適切ではなかった可能性があることと、今回の調査では使用頻度は尋ねていないが、日ごろあまり用いない単語である可能性が高いことが推察される。今後さらに使用頻度を踏まえた検討が必要であると考えられる。また、産出率0の単語の望ましき評価をみても、ネガ語がポジ語よりやや多くなっている。このことから、抑制、抑圧といった機制が働きネガティブなものが検索されにくいという可能性も否定できないと思われる。未学習状態で産出率0であっても、たとえば抑うつといった状態下では無意識的なプライミング効果はみられる可能性も考えられ、必ずしも床効果につながる不適切な項目とはいきれないのではないかと考えられる。

一方、産出率が高かった単語については、たとえば単語フラグメント完成課題に関して、完成率が60%を超えてしまうものはプライミング効果が生じた場合に天井効果を生じさせる恐れがあり不適切であるという指摘¹⁷⁾もあることから、潜在記憶テストとしては用いない方がよいものと考えられる。産出率60%以上の「潔べき」「積極的」「几帳面」「しつこい」をもし用いるのであれば意味定義を再度検討する必要があるといえよう。全体的にみると、産出率の平均はポジ語で14%、ネガ語で13%とあまり高くはない。Watkins 他¹²⁾の研究では、単語の定義に加えて、元の単語の最初の一字が呈示されているが、産出率を上げる方法としては、そういった修正を行うことも考えられ得る。なお、今回の産出課題では制限時間を設けなかったが、制限時間を設ける場合には、さらに産出率が低くなる可能性が高いことが予想されよう。藤田の研究¹⁷⁾では、未学習状態での完成率が平均で約23%になるように刺激セットを作成した実験が紹介されており、また堀内²⁶⁾の研究においても、従来の潜在記憶テストでは正

表 1 特性語の望ましさを平均評定値

特性語	N	評定 [†]		特性語	N	評定	
		平均値	SD			平均値	SD
優しい	16	1.88	0.89	気重	15	5.87	1.55
親切	18	2.28	1.13	大げさ	15	5.93	1.87
寛大	16	2.31	1.14	神経質	19	5.95	1.27
誠実	16	2.38	1.15	上の空	19	6.00	1.25
勇敢	16	2.38	0.96	あきっぱい	15	6.20	1.61
素直	18	2.50	1.25	引込思案	19	6.21	1.03
正直	16	2.63	1.50	むら気	15	6.27	1.39
なごやか	18	2.67	1.28	移り気	19	6.32	0.95
献身的	16	2.81	1.28	臆病	15	6.33	1.76
朗らか	18	2.89	2.00	せっかち	15	6.40	1.59
おだやか	18	2.94	1.39	盲目的	15	6.40	1.59
安定	18	3.00	1.08	気むずかしい	15	6.47	1.77
快活	16	3.00	1.26	しっと深い	19	6.47	1.65
勤勉	18	3.00	1.14	打算的	15	6.47	1.96
口堅い	18	3.00	1.53	めちゃくちゃ	15	6.47	1.77
積極的	16	3.00	0.89	頭ごなし	19	6.58	1.46
人なつこい	16	3.00	1.37	八方美人	19	6.58	1.46
着実	18	3.11	1.41	辛らつ	15	6.67	1.11
陽気	18	3.17	1.20	意地っ張り	15	6.73	1.75
純真	17	3.18	1.01	憂うつ	19	6.74	0.87
親身	18	3.39	2.00	うかつ	15	6.80	1.66
まめ	16	3.44	1.26	情け知らず	19	6.89	1.63
綿密	16	3.56	1.31	軟弱	15	6.93	1.53
律儀	16	3.56	1.36	おせっかい	15	7.00	1.65
慎重深い	18	3.61	1.75	散漫	15	7.00	1.13
冷静	18	3.61	1.42	なげやり	15	7.00	1.46
自発的	18	3.78	1.80	悲観的	15	7.00	1.73
おっとり	16	3.94	1.29	冷酷	19	7.00	1.80
じっくり	16	3.94	1.53	むっつり	19	7.05	1.54
慎重	18	3.94	1.39	意気地なし	15	7.07	1.28
太っ腹	18	3.94	1.26	冷淡	19	7.11	1.37
猛烈	18	4.06	1.63	ふしだら	15	7.13	1.85
几帳面	16	4.13	1.26	軽はずみ	19	7.16	1.21
気楽	16	4.25	1.57	軽薄	19	7.16	1.34
気軽	18	4.33	1.68	中途半端	19	7.16	1.50
沈着	18	4.39	1.54	やかましい	19	7.21	1.47
雄弁	16	4.44	1.82	怒りっぱい	19	7.26	1.69
しぶとい	18	4.56	1.15	そらぞらしい	15	7.33	1.45
ざっくばらん	15	4.73	1.67	でたらめ	19	7.47	1.84
平然	16	4.88	0.81	いい加減	19	7.53	1.31
のんき	16	4.94	1.12	意地悪	19	7.53	1.71
潔べき	18	5.06	1.80	口軽い	15	7.53	1.64
形式的	19	5.26	0.81	口汚い	15	7.53	1.64
淡々	16	5.31	1.66	わがまま	15	7.53	1.55
ゆきあたりばったり	15	5.47	1.46	押しつけがましい	19	7.58	1.50
あけっぴろげ	15	5.67	1.80	やりっぱなし	19	7.58	1.30
気まぐれ	15	5.67	1.88	しつこい	19	7.63	1.34
無謀	19	5.68	1.42	残忍	15	7.67	1.40
小胆	18	5.78	1.22	乱暴	19	7.74	1.28

† 得点範囲は 1-9. 得点が高くなるほど望ましくないことを示す。

表2 意味定義と特性語及び未学習状態での産出率

特性語	意味定義	N	産出率
潔ぺき	不潔や不正を極度に嫌うこと。また、そういう性質。	16	.75
積極的	物事をすすんでしようとするさま。	18	.72
几帳面	物事をすみずみまで気をつけ、きちんとするさま。	18	.61
しつこい	うるさくつきまとう。執念深い。	15	.60
大げさ	物事を実質以上に誇張していること。	19	.58
おせっかい	余計な世話をやくこと。他人の事に不必要に立ち入ること。	19	.58
中途半端	物事の完成まで達しないこと。また、どっちつかずで徹底しないさま。	15	.57
慎重	注意深くて、軽々しく行動しないさま。	16	.56
意地悪	人がいやがる仕打ちをわざとすること・人。	15	.47
しつと深い	自分の愛する者の愛情が他に向くのをうらみ憎む心が強い。	15	.47
冷静	感情に動かされることなく、落ち着いていて物事に動じないこと。	16	.47
臆病	ちょっとした物事にもおそれること。	19	.42
口軽い	簡単に秘密を漏らす。	19	.42
誠実	他人や仕事に対してまじめでまごころがこもっていること。	18	.39
勇敢	勇ましく、思い切つてすること。	18	.33
わがまま	相手や周囲の事情を顧みず、自分勝手にすること。	19	.32
献身的	自己を犠牲にしてでも他のために尽くすさま。	18	.28
人なつこい	すぐに人となれ親しみやすい。	18	.28
八方美人	誰に対しても如才なく振舞う人を軽んじていう語。	15	.27
あきつぼい	すぐにいやげがさしてしまう性質である。	19	.26
素直	飾り気なくありのままのこと。心の正しいこと。人にさからわないこと。	16	.25
正直	いつわりのないこと。かげひなたのないこと。	18	.22
雄弁	人に感銘を与える、巧みで力強い弁舌。	18	.22
寛大	心の広くゆるやかなこと。	18	.17
なげやり	結果はどうなっても構わないと、無責任な態度であること。	19	.16
軟弱	性質や意志がよわくて、物事に耐え得ないこと。	19	.16
ゆきあたりばったり	先のことを深く考えず、成り行きにまかせて物事を行うさま。	19	.16
上の空	他のことに心が奪われて、そのことに精神が集中しない状態。	15	.13
おだやか	心が落ち着いて安らかなさま。人柄が荒々しくなく、物腰が丁寧なさま。	16	.13
朗らか	心の晴ればれとしたさま。また、気持・性格が明るく楽しげなさま。	16	.13
憂うつ	気がはればれしないこと。気がふさぐこと。	15	.13
冷酷	思いやりがなく、むごいこと。	15	.13
ふしだら	しまりのないこと。特に男女関係にけじめがなく、品行のおさまらないこと。	19	.11
快活	はきはきとして元気のあること。明るくさっぱりして勢いのよいこと。	18	.08
頭ごなし	相手の言い分をよく聞かず、最初から一方的に物を言うこと。	15	.07
移り気	興味の対象が変わりやすいこと。	15	.07
怒りっぽい	ささいな事にもすぐ腹を立てる性格である。	15	.07
押しつけがましい	相手の気持にかまわず、無理にさせるような態度。	15	.07
神経質	こまごまと気に病むたち。また、そのさま。	15	.07
引込思案	進んで物事をしたり、人前に出たりする元気にとぼしい態度や性質。	15	.07
むつつり	口数が少なく無愛想な表情であるさま。	15	.07
やりっぱなし	物事をしたまま、または途中で後始末をせずに置くこと。	15	.07
乱暴	荒々しい振舞をすること。粗雑であるさま。	15	.07
冷淡	物事に熱心でないこと。あっさりしていること。同情心のないこと。	15	.07
安定	物事が落ち着いていて、激しい変化のないこと。	16	.06
おっとり	こせつかないで、ゆったりしているさま。	18	.06
勤勉	仕事や勉強に一心にはげむこと。	16	.06
親切	人情の厚いこと。思いやりがあり、配慮のゆきとどいていること。	16	.06
親身	肉親に対するようなまごころのこもった心づかいをするさま。	16	.06
沈着	落ち着いていること。物事に動じないこと。	16	.06
のんき	気分や性格がのんびりしていること。心配性でないこと。	18	.06
太っ腹	度量の大きいこと。肝の太いこと。	16	.06
意気地なし	物事をやり抜こうとする気力がない人。	19	.05

(表2 つづき)

特性語	意味定義	N	産出率
気まぐれ	その時々思いつきで行動するさま。	19	.05
せっかち	先を急いで心の落ち着きがないさま。	19	.05
打算的	物事をするのに、損得を考えて取りかかるさま。勘定高いさま。	19	.05
あけっぴろげ	心に包み隠しのないさま。	18	.00
いい加減	条理を尽さないこと。徹底しないこと。深く考えず無責任なこと。	15	.00
意地っ張り	無理にでも我を通そうとがんばること・人。	19	.00
うかつ	注意の足りないこと。うっかりしているさま。	19	.00
軽はずみ	深く考えずに、調子に乗って言ったりしたりすること。	15	.00
気重	気分が引き立たないこと。気分が沈んでいること。	19	.00
気軽	物事を深刻に考えず、もったいぶらないこと。こだわりなく事をするさま。	16	.00
気むずかしい	自分の考えや感情にこだわり、たやすく人に同調しない。	19	.00
気楽	苦労や心配がなく、のんびりしているさま。物事にこだわらないこと。	18	.00
形式的	表面的な形ばかりで内容が伴わないさま。	15	.00
軽薄	思慮のあさはかで篤実でないこと。	15	.00
口堅い	言うことが確かである。いたずらに他言しない。	16	.00
口汚い	言い方に品がない。	19	.00
ざっくばらん	心中をさらけ出して隠さないさま。遠慮がないさま。	18	.00
残忍	慈悲心の少しもないこと。無慈悲な行いを平気ですること。	19	.00
散漫	とりとめのないさま。しまりのないさま。	19	.00
じっくり	落ち着いて時間をかけて、念入りに行うさま。	18	.00
自発的	自分から進んでするさま。	16	.00
しぶとい	困難に負けず強い。	16	.00
純真	まじりけのないこと。けがれのないこと。邪念や私欲のないこと。	16	.00
小胆	気の小さいこと。度量の狭いこと。	15	.00
辛らつ	極めて手厳しいこと。	19	.00
そらぞらしい	知って知らないふりをする。見え透いている。	19	.00
淡々	あっさりしたさま。執着のないさま。	18	.00
着実	態度が落ち着いて軽率でないこと。また、物事が危なげなく行われること。	16	.00
慎み深い	差し出がましいところがなく、控え目である。	16	.00
でたらめ	筋の通らない言動。また、物事や言動が首尾一貫しないさま。	15	.00
なごやか	気分がやわらいでいるさま。	16	.00
情け知らず	人情を解しないこと。思いやりのないこと。	15	.00
平然	平気で落ち着いているさま。	18	.00
悲観的	物事がうまくいかず、悲しんで失望するさま。	19	.00
まめ	労苦をいとわずよく勤め働くこと。	18	.00
無謀	物事をするとき、そのやり方や結果について十分考えていないこと。	15	.00
むら気	気の変わりやすいこと。心の定まらないこと。	19	.00
めちやくちや	秩序・道理などがひどく乱れていたり統一がとれていなかったりするさま。	19	.00
綿密	くわしくこまやかなこと。手抜かりのないこと。	18	.00
盲目的	感情に引きずられて、理性を失い、分別を欠くさま。	19	.00
猛烈	勢いや作用が激しいこと。	16	.00
やかましい	小言が多く、聞いてうるさく感じる。	15	.00
優しい	周囲や相手に気を遣って控え目である。	18	.00
陽気	心が晴れ晴れしいこと。うきうきすること。	16	.00
律儀	義理堅いこと。実直であること。	18	.00

完成率が.20～.30の場合がもっともプライミング効果を得やすいことが紹介されている。本研究で作成した刺激を潜在記憶テストに用いる場合にも、未学習状態で20～30%となるように組み合わせた刺激セットとすることが必要ではないかと考えられる。

4. 今後の課題

本研究では未学習状態での産出率を調査したが、今後は、意味定義をさらに検討することに加え、潜在記憶テストとして用いた場合のデータを蓄積し、さらに修正していくことが必要であると考えられる。また、たとえば生成効果や処理水準効果を検討することによって、潜在記憶課題間や概念駆動型課題間で求められる概念駆動型処理について比較し、課題の性質について明らかにすることも必要であるだろう。

刺激の感情価については、今回は望ましい－望ましくない、すなわち、ポジティブとネガティブの二分で検討したが、抑うつ－記憶研究においては、特性語の望ましさだけでなく、抑うつ関連語であるか否かも重要ではないかとも考えられる。今後そういった点からも調査することが必要であるだろう。

引用文献

- 1) ベック, A. T. 著、大野裕訳 (1990). 認知療法－精神療法の新しい発展－ 岩崎学術出版社. (Beck, A. T. (1976). *Cognitive therapy and the emotional disorders*. New York: International University Press.)
- 2) ベック, A. T.・ラッシュ, A. J.・ショウ, B. F.・エメリイ G. 著、坂野雄二監訳 (1992). うつ病の認知療法 岩崎学術出版社. (Beck, A. T., Rush, A. J., Shaw, B. F., & Emery, G. (1979). *Cognitive therapy of depression*. New York: Guilford.)
- 3) Bower, G. H. (1980). Mood and memory. *American Psychologist*, **36**, 129-148.
- 4) Blaney, P. H. (1986). Affect and memory: A review. *Psychological Bulletin*, **99**, 229-246.
- 5) Teasdale, J. D. (1983). Negative thinking in depression: Cause, effect, or reciprocal relationship? *Advances in Behaviour Research and Therapy*, **5**, 3-25.
- 6) Watkins, P. C. (2002). Implicit memory bias in depression. *Cognition and Emotion*, **16**, 381-402.
- 7) Watkins, P. C., Vache, K., Verney, S. P., Mathews, A., & Muller, S. (1996). Unconscious mood-congruent memory bias in depression. *Journal of Abnormal Psychology*, **105**, 34-41.
- 8) Matt, G. E., Vazquez, C., & Campbell, W. K. (1992). Mood-congruent recall of affectively toned stimuli: A meta-analytic review. *Clinical Psychology Review*, **12**, 227-255.
- 9) Murray, L. A., Whitehouse, W. G., & Alloy, L. B. (1999). Mood congruence and depressive deficits in memory: A force-recall analysis. *Memory*, **7**, 175-196.
- 10) 田上恭子 (2002). 抑うつと記憶 東北大学大学院教育学研究科研究年報, **50**, 95-109.
- 11) Williams, J. M. G., Watts, F. N., MacLeod, C., & Mathews, A. (1997). *Cognitive psychology and emotional disorders*, 2nd edition. New York: Wiley.
- 12) Watkins, P. C., Martin, C. K., & Stern, L. D. (2000). Unconscious memory bias in depression: Perceptual and conceptual processes. *Journal of Abnormal Psychology*, **109**, 282-289.
- 13) 藤田哲也 (1994). 潜在記憶研究における単語完成課題をめぐる問題 心理学評論, **37**, 72-91.
- 14) 岡田圭二 (1999). 潜在記憶理論の展望 心理学評論, **42**, 132-151.
- 15) Roediger, H. L. (1990). Implicit memory: Retention without remembering. *American Psychologist*, **45**, 1043-1056.
- 16) Schacter, D. L. (1987). Implicit memory: History and current status. *Journal of Experimental Psychology: Learning, Memory, and Cognition*, **13**, 501-518.
- 17) 藤田哲也 (1997). 潜在記憶研究における単語フラグメント完成課題の作成について 光華女子大学研究紀要, **35**, 111-126.
- 18) Blaxton, T. A. (1989). Investigation dissociations among memory measures: Support for a transfer-appropriate processing framework. *Journal of Experimental Psychology: Learning, Memory, and Cognition*, **15**, 657-668.
- 19) Hamann, S. B. (1990). Level-of-processing effects in conceptually driven implicit tasks. *Journal of Experimental Psychology: Learning, Memory, and Cognition*, **16**, 970-977.
- 20) Scott, K. M., Mogg, K., & Bradley, B. P. (2001). Masked semantic priming of emotional information in subclinical depression. *Cognitive Therapy and*

- Research*, 25, 505-524.
- 21) Denny, E. B., & Hunt, R. R. (1992). Affective valence and memory in depression: Dissociation of recall and fragment completion. *Journal of Abnormal Psychology*, 101, 575-580.
- 22) Watkins, P. C., Mathews, A., Williamson, D. A., & Fuller, R. D. (1992). Mood congruent memory in depression: Emotional priming or elaboration? *Journal of Abnormal Psychology*, 101, 581-586.
- 23) Roediger, H. L., & McDermott, K. B. (1992). Depression and implicit memory: A commentary. *Journal of Abnormal Psychology*, 101, 587-591.
- 24) 田上恭子 (1999). 抑うつにおける潜在記憶バイアス 日本心理学会第63回大会発表論文集, 567.
- 25) 田上恭子 (2003). 抑うつの程度が潜在記憶に及ぼす影響 弘前大学教育学部紀要, 90, 193-199.
- 26) 堀内孝 (2000). 社会的認知研究のための潜在記憶テストの作成 名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要 (心理発達科学), 47, 407-412.
- 27) 青木孝悦 (1971). 性格表現用語の心理 - 辞典的研究 - 455語の選択、分類および望ましさの評価 - 心理学研究, 42, 1-13.
- 28) 新村出編 (1998). 広辞苑第五版 岩波書店.
- 29) 山口翼編 (2003). 日本語大シソーラス - 類語検索大辞典 大修館書店.
- 付記: 本研究は文部科学省科学研究費補助金 (若手研究(B) 課題番号16730343) の助成を受けて実施された。
- (2007. 7. 31受理)